

<全体分析>

試験時間 2科目 120分

解答形式  
記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問数は3題で変わらず、総ページ数(13ページから12ページ)と設問の数(20問から22問)もあまり変わらない。論述問題の数(7題から7題)と計算過程を記述する問題の数(5題から5題)も変わらず、全体としての分量はほぼ同じであった。

取り組みやすい設問が増え、思考力を要する問題や煩雑な計算問題が減ったため、全体としては昨年よりやや易しかった。

出題の特徴や昨年との変更点

目新しいテーマ・題材について考察させる問題がよく出題される。本年では3のアジド基をもつ化合物を用いた「クリック・ケミストリー」が該当する。計算問題では導出過程を書く必要があり、また、論述問題も多く出題される。

その他トピックス

前述のとおり、3では「クリック・ケミストリー」とよばれる有機化合物の新しい合成手法を題材として、教科書に記載のないアジド基をもつ化合物と炭素間三重結合をもつ化合物の反応が扱われたが、問題文は読み取りやすく、答を導くことは比較的容易であった。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	記述, 選択 計算, 論述	理論	化学基礎 化学	実在気体 圧縮率因子 ファンデルワールスの状態方程式 原子の電子配置 物質の状態	標準
2	記述, 選択 計算, 論述	無機, 理論 有機	化学	カルシウム化合物 水酸化カルシウム, さらし粉, セッコウ 化学反応と熱 硬水とセッケン 難溶性塩の溶解平衡 キレート滴定	やや易
3	記述, 選択	理論, 有機	化学基礎 化学	炭化水素 アゾ化合物 クリック・ケミストリー 同位体	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

ここ数年は標準的なレベルの問題を中心に出题されているが、実験データを基に考察して解答する問題や受験生にとっては見慣れない物質や現象をテーマにした問題が多く出題されるので、標準的な問題を確実に解ける学力を身に付けるとともに、「考える力」を養う訓練を心がけること。